

学校体育に対する苦手意識の形成

—運動用品の画一性に着目して—

1220457 黒田 果甫

指導教員 中川 善典

研究背景

日本は長年に渡り世界有数の長寿国であるとともに、超高齢化社会を迎えている。高齢者が活躍するには健康寿命の延伸が必須であり、そこには運動習慣がものをいう。また、学校体育は、発育期の運動経験において大部分を占めており、体育の授業での経験が今後のスポーツライフに大きく影響する。

研究目的

本研究は、体育の授業の参加者全員に共通する外部要因として運動用品に着目し、これが体育の授業に対する感情に影響を与えているかを明らかにすることを目的とした。

調査・分析方法

体育の授業が嫌いだと述べている学生1名を対象に、小中高の学校体育での経験を振り返ってもらい、非構造化インタビューを行った。このインタビュー結果を踏まえ、本調査では、“運動用品の画一性”に絞り、自由記述式のアンケート項目を設定した。運動用品の自由化に対する賛成意見・反対意見、運動用品が体育の授業のモチベーションに影響を与えたか与えていないかをそれぞれラベリングし、全体構造を把握し分析した。

分析結果

学校体育で使用する運動用品の画一性には、経済性・代替性・精神的画一性・機能的画一性・審美性の5つの評価軸が存在した。また、機能的画一性・審美性の2つの項目のネガティブな感情は、体育の授業に対するモチベーションダウンにつながりやすい。

考察・結論

学校体育で使用する運動用品の画一性には、経済性・代替性・精神的画一性・機能的画一性・審美性の5つの評価軸が存在している。このうち、精神的画一性のネガティブな側面である抑圧性は、事前調査の対象者の事例や先行研究⁶でも指摘されており、同様の結果が得られた。また、精神的画一性・機能的画一性・審美性の3つの項目は、ポジティブ・ネガティブの両方の側面で体育の授業に対するモチベーションに影響を与えやすい。特に、機能的画一性・審美性の2つはその傾向が強く、ポジティブな側面よりもネガティブな側面の影響を受けやすい。一方で、経済性・代替性の2つの評価軸は、本研究の調査結果では体育の授業に対するモチベーションに影響を与えていなかった。